自發活動と目的活動（二）

―保育原理の問題―

倉橋惣三

然らば其自然がとれる發達原理と云ふのは何であるか。是は進化論の法則、或は發生心理學の法則としては色々の言葉を使ふやうでありますが、要するに試行錯誤の法則に歸着せしめて仕舞ふことが出來る。少くも自然の發達を受身の意味に於て解決するのでなくて、自然の活動の意味に於て解釋しますならば、還境の影響と云ふやうなことは別として、矢張試行錯誤と云ふ事實の中に這入つて來た時のみ意味があると云ふことになるのであります。自然には我々の子供が持つて居るやうな親切な先生と云ふものはありませぬ、只自然の道を辿つて來た其中に失敗をし又試み、又失敗をして又試みる、其大きな試行と錯誤との中に發育して來た、斯う云ふ風に見るのであります。此試行錯誤の法則は赤ん坊が成長して參ります事實の中にも幾らも見られることであり、又老人方がよくいふ、世の中のことは經驗して失敗して見なくちや分らぬ、苦勞して見なければ碌な者にはならぬと云ふのも矢張此意味と見られます。親切に親切にしやうとして居る教育者でも、我が親切の施し方の足りないことばかり心配して居る教師でさへも、子供に試行錯誤を强ひるのでありますが況んや自然の取れる發達原理そのものに任せやうと云ふ時に於ては試行錯誤に全部依賴して居るものと云はなくちやならぬ。其試行錯誤と云ふものは確かに自然の執つて來た大きな發達原理でありますけれども、是は其特色として所謂偶然であります。自然の方から申しますならば、それだけしかなかつたと云ふ意味に於て必然であるかも知れない。或は論理上の言葉

でいへば實然なものである。斯う云ふやうな關係に於ては決して偶然と云ふべきものでないかも知れませぬ。偶然に春蒔いたものが秋實つた。偶然に秋蒔いたものが、春花が咲いたと云ふやうなことは、是は自然の方から云つたならば愚かな云ひ方かも知れないのでありますけれども、人間の立場から云へば、計畫と云ふことをすると云ふ立場から云へば、是は矢張偶然と云はなくちやならぬ。其偶然にだも信頼して居ると云ふことが、此自動主義の根柢であります。

自動主義の考と云ふものを裸にして、眞裸にしてさうしてぎゅーゝ云はせて見れば、今申したやうな所に落着くと思ひます。自動主義と云ふものがありながら、自分の主義に便り此方の先生に便り、此方の方法に便る。要するに實際は普通の教育法と違はないと云ふやうな意味の自動主義者ならば、それは自動主義ぢやない。自動主義と云ふことを裸にして突詰めて見ると斯う考へざるを得ない。即ち何故出發點其ものだけの所に價値を置くか其自然の出發點を捉へることに依つて、自然の發達過程を取る。其自然の發達過程は人間から考へれば可なり危險が多いやうな偶然的なものであるけれども、それをだも信ずる、さうしてさへも安心を持たれる程の自發的發達能力が子供にあると思ふ。斯う思つて居るのであります、私自身の考を申上げると云ふことは、此講義では出來るだけ愼みたいと思つて居るのでありますが、論理の自然の歸着を辿つて行くだけの餘裕がありませぬから、私は其結論へ行くと云ふことを申上げなくちやならぬ、其意味に於ては自發活動と云ふやうなことは小さな兒童の持つて居る自然ではありまして、其自然と云ふものは反動的な意味を除いては當然尊重せらるゝだけの尊重價値を持つて居るが、そんなに大騒ぎしなくて宜いものに過ぎない、斯う云ふことを云ひたいのであります。

齒切れの悪い云ひ方でありますが、自然なれば自然であると云ふことに於て當然それだけの値打があることである、多く買被ぶる必要もなし。低く見下げる必要もない、それだけのものである、若し其反對の事實が之までに經驗されて居りましたならば反動的に買被ぶると云ふことになるのは、是は人間の通常でありますけれども、併し反動要素と云ふものを

除いて考へるとして、正當にデビエートすると云ふ上に上にも出ないし、下にも下らないだけの話であります、我々此空氣の中に生活して居る爲に何もそんなに飛立つ程嬉れしいと思ひませぬ、併しどうかして甚だ空氣の稀薄な所に追ひやられたとしたならば、それから出て來て空氣の所に行けば此自然狀態を非常に有難く思ふでせう、我々教育と云ふ學說から出發して子供を教育した場合には前の教育學說から反動的に色々の教育學說へ移つて行きますが、教育と云ふものを離れて子供それ自身の自然性へ自分で打突つて行く、其經驗を反對的に云ふものだからと云へば、兒童は自發性のものである。だから自發性のある教育過程の中に意義を持つものであると云ふことは、何にも特殊な問題でないと云ふやうになる、所謂教育論者のトリックでありまして、心理的に子供の實際生活を有りの儘に只眺めて來たものに取つては此子供が自發生活を持つて居ると云ふことは別に問題ぢやないと云ふのは、我々が實際的に子供を取扱ふ時に其問題を輕んじて居ると云ふことでないことは申すまでもありませぬ。

茲に於て私はフレーベルがどう云つたとか、昔の人がどうしたとか、誰が言葉を强めて自動主義を說いたとかと云ふやうな教育史上の事實を離れて只子供と二人相對して考へます時には、自發性と云ふものは、或は自發活動と云ふものは、我々が當然其兒童に於て認めて行くだけのことであると云ふことになるのであります、之を言換れば之を以て特に新教育原理とすると云ふことは、そんなに新しいことでも何でもないと云ふことに見たいと思ふ、誤がない爲にもう一度申上げて置きますが、斯う云ふ風な考察の結果、我々は斯う云ふ所に來て居る、詰り兒童の自發活動と云ふことは是は兒童の持つて居る我々が良いと云ふから良いのぢやなくて、詰らぬと云つた所で仕方がないものであるし、我々が拵へたものぢやないから我々の手柄にもならないし、無理にとめると云ふことも到底出來ないことではあるし、詰り相當の自然に對する尊敬を拂つて相當に之を取扱つて行くと云ふだけのことだと云ふことになるのであります。

さう考へました自發活動と云ふものは自然の大きな發達の原理に從ふと云ふ其自然的樂天的な立場から云ひますなら

ば、其偶然であると云ふ所に實に大きな千萬無量の意味がある、小さな人間が小さい工夫をして小さな小細工をしてやらうと云ふ教育に對してネーチュアの法則に從つて、其ネーチュアの發達に於て育てると云ふやうな言葉を使つて見ると、もう只そんなことを云ふだけで何だか心持が良くなるやうな所があります、大層自分が自然其ものに合體したやうな氣がする、殊に人のして居る小細工を見て、批評的にリターン、ネーチュア、と叫べば大層一種の精神の興奮したやうな感を持つものである、それ程是は本當に自然的で、或る意味に於て理想的な言葉であります、本當にナチュラルで、リアリティックのことであるだけ、それだけリアリティの響を持つて居る言葉であります、ルツソーの教育論と云ふものは徹頭徹尾リアリティズム、ナチュラリズムであつて、實際青年教育者がエミールを讀んで、ずつとあの名文に依つて與へられる心持と云ふものは極度の理想主義教育論に入る、それ程此自然の法則に信頼せしめ、總ての詰らぬものでも信仰する、それが自分をエレベートして呉れるものになりますやうな其一般法則に基いて、それは非常に偉い事實に人間としては感じて來る。

けれどもさう云ふ精神的興奮を離れて此偶然性と云ふものを見ますと、自動主義其ものゝ教育論としての批評を離れて、之だけ見ますならば、是は要するに氣紛れの要素が這入つて居ると云ふことが云へると思ふ、氣紛れが宜いと云ふのならば偉大なる理想主義である、そこまで行くなら面白いことであり、そこまで行ける人は又尊敬すべき人である、皮肉に云ふのでなく、實際さう思ふのです、けれども氣紛れそのものは矢張氣紛れを持つて居る、氣紛れと云ふことを心理的に置換へて見れば、此氣紛れなることを我々が信頼し得る其信頼の心的要素は可なり感情的なものであります、私の與へられた理性に依つて、斯うだから斯うだと云ふ理詰めの所に私が信頼するならば理性的の信頼でありますが、あの大なるネーチュアの氣紛れよと云つて、おーと云つて信頼するならば可なり是は感情的の要素を持つて居ります、同時に其氣紛れの生活に依つて生活して居る所の子供、言換へれば、氣紛れそのものを私は此處で良い惡いと云はずとも、精神活動の

出發點と云ふ所だけで生活して居る子供、精神活動の出發點と云ふ所だけで生活させられて居る子供と云ふものは子供自身が氣紛になり、感情的になると云ふことは免れない。

淳いやうでありますが、もう一度縮めて申しますならば其出發點だけに於て意義のある自發と云ふことも、其自然的出發をさせれば、自然的大きな法則に依つて發達するものと信ずれば、翻つて其出發點と云ふことに意義ある、併し出發點それ自身だけを見て行きますならば、此出發點で自發的にそれは過程も結果もない生活であつて、此方の出發點で生活する、又此方の出發點で生活すると云ふやうに、あの道を迷つてぐる〳〵して居る人と同じで無限の出發點を持つて居るとも云へる、理を追つて考へて行く人と云ふものは一時間考へても、寢ずに考へても一つの考を、一つの生活をして居る、只眠られなくて、色々のことを色々考へて居る神經衰弱性な考へ方と云ふものは時間に於ては長く續くのでありますけれども、始終新しい出發點から此方を考へ、此方を考へ、此方を考へ、詰り出發點だけの生活を續けて居ると云ふことは、は、それが或る大きな教育的事實としての自然過程に導くと云ふ點にはどんな或は價値があるか知れませぬが、出發點それ自身だけで、子供が始終生活して居ると云ふことは子供をして氣紛れの感情本位のものにする自動主義教育論は自發興味と云ふものを非常に重きを置く、インテレストと云ふ問題は教育學上實に幾度も〳〵着物を脱換へた言葉でありましてうつかりどの意味と云ふことを判然云はないと飛んでもないことに我々が間違を起す、併し自動主義教育論者が云ふ自發興味と云ふものは其自發的と云ふ所に重きを置いて居るインテレストである、其自發興味は前に申上げた所に依つて見れば本當の純粹のさう云ふ內在的の活動々力から出た興味であるのだから、或は自分も知らぬ人も知らぬけれども、外の何物かに刺戟され誘引されて居るのか、そこは判然しないにしましても、何方にしましても、結果と過程に興味はない、只出發點に於て興味を感じて居る。

斯う云ふ生活は若し我々がそれに依つて吾人の人生を迎るとすれば驚くべき偉大なる信念であるか或は無責任な出鱈目

であるか、何方かに歸着する、我々が子供をしてさう云ふ自發興味だけを持つて居る子供に育てると云ふことはリターン、ツー、ネーチュア、そこに何だか總てを解決したやうな安心があるやうであります、我々の如き人間として、ネーチュアに解脱することの足りないものに付ては大いなる信賴が又そこに殘つて來る、屹度良くなると云ふ信賴……屹度惡くなると云ふことならば心配ぢやない、是は惡いに定つて居る、併し自發興味に依る偶然生活と云ふ偶然的生活の習慣と云ふものが惡くなるか知らぬ、良くなると人は云ふが惡くなるかも知らぬと云ふ所に人間的不安と云ふものはある、其人間的不安と云ふものに對して、自發活動に埋合はす所の、或は自發活動に相對立する所の其概念として持ち出したものが目的活動であります。

目的活動と云ふことは、教育學の中で申しますならば、まあ新しく起つて來た概念であると云つて宜いかも知れませぬが、併し世の中に新しきことあるなしと云ふやうな立場から云へば、どつかで誰か一度考へたことでありませうが、併しそれを所謂問題に取出して來たのは比較的新しいことであるかも知れませぬ、自發活動と云ふことは古くからあります考であるけれども、特にフレーベルを聯想する如く、目的活動と云ふことに於て我々が第一に聯想するものはデウエーであります、デウエーの心理說、或はデウエーの主意的哲學、それらのものが生れて來た元とを搜せば、それは色々のものがありませうけれども、それが或る一人の人の良い頭腦を通して我々に提供されました其問題としてはデウエーと云ふ所まで遡るだけで先づ宜からうと思ひます、意思の心理と云ふ純粹心理學者の研究の中に於ては目的活動と云ふものは古い問題であります、意思論卽ち目的生活論でありまして、是は別に新しいことでも何でもない、けれども之をあの大いに主意的活動であるとされて居りました色々の生活の中にまでそれを持つて來て、さうして主意的だと考へられて居る自己の生活まで要するにそれは目的活動である、意思的のものである、斯う云ふやうな働を與へたのはデウエーであると云つて宜からうと思ひます、其デウエーの考が直接でないとしましても、特に基礎になつて居るプロジェクトメソッドは詰り此目

的觀念を元とにした教育の一種の代表的な、近頃の代表的なものと云ふことが出來ませう。

勿論一つの教育説と云ふものは極めて複雜なものでありまして、教育それ自身が複雜なるが如く、それを纏める綜合學説が矢張複雜であることは云ふまでもないことであつて、一つの教育學説を一つの基本概念で何でも説明して仕舞ふと云ふことは是は無理な又無用な努力であるのであります、プロジエクトメソツドは實に色々のことがそこに這入つて居りませうが、其色々の所を色々の所で見るに從つて、プロジエクトメソツドの値打にしましても、近頃外國に其言葉を譯したりする時に又違つた譯し方もしませう、併しながらプロジエクトメソツドが其精神活動の形式に關係して居る範圍に於ては目的活動であります、プロジエクトソツドが我々に教へます所のある目的を子供に與へて或は目的と云はなければ問題を與へて、其問題を子供をして解をしめる、其解くには抽象思考の法則に依つて解くこともあります、之を具體考に依つて解くこともありませう、兎に角問題解釋、プログレムソーピングの其働としてプロジエクトメソツドと云ふことは考へられなければならぬ、私は此處で前にも御斷りしました如く、新しい名に依つて行はれる新教育學説其ものをアズトータルとして取扱ふと云ふことは思はないのでありますからして、プロジエクトメソツドの論は此處にしないのであります、併しそれに依つて代表して居る或は大きな一部と少くともなつて居る目的活動と云ふものは、是は大いに考へなくちやならぬと思ふのであります。

目的活動と云ふものは何であるか、是は自發活動の如く説明の難かしいものでありませぬ、自發活動は餘りに常然のことでありますからして、何とか定義しなければ分らない、目的活動は自然生活じやなく、目的を持つてそれに向つて生活して行く、大人の我々の生活に極めて良く似て居るものでありますからして是は定義の形にしないでもしない方が、却つて良く分るものであるかも知れませぬ、兎に角子供の子供を自發活動の如其く出發點に於て尊重しないで、其生活活動の結果と云ふ所に於て見て行かうとする、只所謂内在的潛在的な自發活動に依つて、氣紛れな感情的な生活でなく、行手は

分らないと云ふ生活ぢやなく、小さい生活でも下らない生活でも、子供が其行手を見詰めて、結果を見詰めて目的を見詰めて、それを目當てとして出發して居ると云ふ生活、是が目的活動でありませう。

此點に於て、他の點では又問題が變つて參りますが、此點に於て自發活動と目的活動は取敢へず區別がせられる、自發活動の場合を自由遊戯に於て大いに實現するとしますならば、目的活動の場合に於ては一々目的問題を子供に與へる、所謂プロジエクトを與へると云ふことが大きな仕事になつて來る、樂しく遊べよ、自發を恣にせしめよ、自發的であれよ、後は自然が良く育てゝ呉れると云ふ考へ方ぢやなく、御前の生活と云ふものは斯う云ふ風な目的に向つて進め、此問題を解く爲に進め、其目的其問題を子供の活動の出發點とさせる、併しながら其目的と云ふものが、若しも子供の自發的興味と逆らふものであり、又さう云ふ與へ方をされたとしましたならば、是は我々が通り過ぎて居る、そんなに尊重もしないが、併し當然にそれに便らないなれば、兒童の自發性と云ふものに對して矛盾を生じて來ませう、若し目的を與へて問題を與へて、それに到達する、其活動を尊重すると云ふだけに我々の考が止つて、其目的の與へ方が、其目的の性質が子供の自然性である自發興味と云ふやうなものと、何らの關係のないものであつたならば、我々は折角自發興味の問題を通り越して來た今日として逆戻りをして仕舞つて居るのであります、そこで目的と云ふものと問題と云ふものを目當てにして活動させますけれども、併し此目的問題と云ふものは兒童の自發興味に關係のある、少くともそれに逆らはない所のものたらしめなければいけない、若し目的と云ふものを此處に與へて、さうして之に對して子供が生活することが子供に取つて全然自發に反するものでありましたならば、是は自發活動論者が大いに忌み嫌ひました所の、明かに云へばさう云ふ自發性を認めない教育と云ふものに後戻りしたものと云はなければならぬ。

そこで活動それ自身から云ひますならば、其子供のやつて居る活動それ自身から云ひますならば、出發點を主にするか、到達點を主にするかと云ふことに於て二つの違つたやうなことでありますけれども、併しながら、其目的と云ふもの

が矢張其出發點を自發的ならしむるやうな目的でなければならぬと云ふ意味に於ては引括めて、是が自發性のものでなければならぬと云ふことになつて來るのであります、出發點だけを見て考へる自發性ぢやない、目的までの活動を入れた其自發生活と云ふものになつて來るのでありませう、同じ結果を豫期し居る活動に似て非なるもの二つあります。

私が此箱を作る、一生懸命に箱を作つて居ると外では見える、私の心では此箱そのものに付ては何らの自發興味がないのである、早く作り上げて之を市場に出した時に之から得られる所の何圓かの利益、それだけが私の狙つて居る所である、若しも其何圓かの利益と云ふものがないならば、私は決して此箱を作ることに一生懸命にならない、一生懸命に此箱を作つて居るやうに外からは見えますが、箱そのものが私の今の活動に何らの重要な位置を時つて居るものぢやなく、若し何圓かの利益が作らない爲に得られるならば止めて仕舞ふ、お前が箱を作ることを止めたれば幾ら〳〵やると云ふ人が誰かあつたならば止めて仕舞ふ、此場合に於て矢張何圓か所謂結果として、私は一生懸命らしく努力して居る、恐らくは一生懸命にやるのでありませう、或る種の一生懸命にやるのでありませう。

もう一つは、或る何かの理由に依るでありませうが、箱そのものゝ必要を私が大いに感ずる、是が生んで來る第二の結果ぢやなく、箱そのものゝ持つて居る第一結果それが私の狙ひ所である、それで一生懸命それを作つたとすれば、何の爲に木を削つて居るか、何の爲にそんなに寸法を見るのか、何の爲にそんなに釘を打つて居るのか、釘の爲に釘を打つて居るのぢやない、削る爲に削つて居るのぢやない、箱を作る爲に、言換れば結果ある活動をして居るのでありますけれども、併し其場合に於ては箱そのものを作ると云ふことが、私の自發性の中に入つて仕舞ふ、金が欲しいと云ふことの爲に箱を作つて居るならば、金を得ると云ふことゝ、箱を作ると云ふことは判然目的と手段とが、結果と手段とが別のものに分れて仕舞ふのでありまして、其場合に於ては金の得たい方は目的であるかも知れない、自發的なものであるかも知れないが、箱を作ると云ふことは賴まれゝばすることである、厭でもすることである、まあ間に合はせて置けば宜いと云ふの

で甚だ不眞劍な心でもするものであります、若しも子供をして結果意識のある生活をさせやうとする時に今申しました前條の如き其結果の持たせ方をするならば、折角是は我々が當然ではあるけれども、良うこそ氣が付いて居ります兒童の自發性を尊重したいと云ふ心持に對して丸で無駄な結果になる、目的は與へたい、結果は與へたい、結果的生活はさせたいけれども併しそれは決して、兒童の其活動をして無意味なる手段活動ならしめるものでない、其目的と手段とが必然に附着して居るものたらしめなければいけない、斯う云ふ風に自然になつて來るでありませう。

若し斯う考へて來ますならば目的活動と云ふものは矢張大きな一つの自發活動の中に這入つた時だけ教育上の意義が出て來る、所謂自發的目的活動と云ふものになるのでありませう、私は所謂亞米利加流のプロジエクトメソツドの話が出ませぬ前から、當然子供の生活から何も發見でも何でもないのでありますが、當然見出されて居ります自然の歸着として有目的教育と云ふことを考へたり、人に語つたりして居りました、又或る實行もして居た、其有目的教育と云ふものは、今日亞米利加の色々の說に依つて見ますれば、詰りプロジエクトメソツドの一部要素をなして居るものであるらしい、其プロジエクトメソツドと云ふ言葉に依つて聞きますと云ふと、大層是は特殊なことのやうに思ふのでありますが、其有目的生活と云ふものを兒童の中から私共が見出して來ますと、自發生活も亦兒童の中から見出したのでありますから、是は或る一つのものになる、教育學上の學說として自發活動を主にする所の自動主義と、目的生活を主にする所のプロジエクトメソツドとを相對しますと云ふと、是は何だか違つたものゝやうに感ぜられる、勿論委しく研究する人は決してさうではないが、ちよつと違つたものゝやうに考へられる、けれども兒童の生活の中から、其自然の有樣が自發的であり、兒童として矢張目的に向つて生活をしようとして居る、せしめる能力がある、我々の仕向け方が惡い爲に兒童をスポイルし、第二結果を要求する所の手段生活だけを以てすることもないぢやない、繪が面白くも何ともないが、二重丸が欲しい爲に學校へ行くこと自身が面白くも何ともないが賞められる爲に、さう云ふ風な第二次的目的だけで總ての生活を樂々手段化

して、所謂スポイルして居ることも澤山あります。

我々の甚だ責任を感ずる所でありますが、併しさう云ふスポイルされて居ない子供、スポイルされて居る子供であつても、純正目的活動、即ち自發的な遊びのやうな簡單な精神活動形式を持つて居ると云ふことは兒童觀察に於て認める、若しさう云ふ風な見方から行きますならば、此活動と云ふものが、出發點を主にした自發活動と活動の到達點を主にして考へた目的活動論と云ふものは要するに活動それ自身が自發である、其生活單位が自發であると云ふことの意味に於ては決して二つのことぢやない、見方が此方を見たか此方を見たか、我々の見方の偏りだけであつて、兒童は兩方の其活動單位の中に於て區別出來ないものになつて來るのでありませう、そこで言葉を假に附けますならば、出發點の方を主にして考へた時に、其自發性はスポンタナイズされて自動性と云ふものになつて來る、何だか音だけでもサイダーの口がポンと飛んで行くやうに聞えますが、出發點に於てスポンタナイズして行く、それに對して結果と云ふものを入れた自發生活はモチベーション、所謂動機性、モチベーションと云ふことが、目的活動の概念を主とします所のもので、其總ての教育論或は教育方法の中に重要視されて居るものでありますが、是は何か外からの力に依つて動かされたものでないと云ふことに於ては之も之も同じことであります、其意味に於ては兩方共自發的なものであります、只此方は出發點だけを主にして見た時の名付け方である、是は到達を主にして見た時の名付け方である。

若し極端な自發活動論者が云ふ如く、子供の活動は皆出發點だけで、後は子供に何らの活動抱擁性がないものである、出發點の所だけは子供が自分で皆するが、後は我々が皆してやらなければならぬと云ふ極端な自發性の論をしますならば、其時に於ては恐らく此結果も從つて兒童に當然出來ることゝは云へなくなるかも知れない、併し我々が兒童の生活を見まして、成る程兒童は氣まぐれに出發點の自發性はあります爲に遊戯をして居ります、さうして我々がひよつと小細工を混じないでどうかしようかと思ふ時に、我々も亦自然に對してハンブルな感じが起るとしますならば、是は手を着けな

い方が宜い、その儘で置いて見よう、それはなまじ手を着けちや悪いと云ふやうな我々に心持が起る。けれども同時に我々子供を見て居りますと云ふと、可なり所謂自由遊戯と云ふものも只純衝動的の自發性ではなく、或る結果、或る結果に向つて活動する。隱れん坊と云ふことは、大抵其意味に歸着するのでありませう。まあ斯う云ふ風な考察をいたしまして、其目的活動を主にする教育法と云ふものが兒童の上にどんな影響を及ぼして來るかと云ふやうな問題は次の問題になるのです。

客「幼兒教育者として、私に何が一番缺けて居ませうか」

主「さよう、失禮ですが、ほんとうの藝術がお分かりにならないことでせうかな」

客「では、どういたしたらいゝのでせう」

主「いゝ繪を御覽なさい。いゝ音樂をお聽きなさい」